

(様式1)

環境配慮検討書

教委第13-174号
平成27年1月9日

三重県環境調整システム推進会議 会長 様

三重県教育委員会事務局
特別支援教育課長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	特別支援学校東紀州くろしお学園(本校)統合整備事業		
連絡先	担当課所名	三重県教育委員会事務局特別支援教育課	
	担当者職・氏名	主幹 大井雅博	電話番号 059-224-2961

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	特別支援学校東紀州くろしお学園（本校）統合整備事業	
(2)目的	小学校の施設を借用し、小・中学部と高等部に学校が分散している東紀州くろしお学園を県立特別支援学校整備第二次実施計画(改定)にもとづき、新たに特別支援学校を整備して、学習環境の改善を図ります。	
(3)事業主体	三重県教育委員会	
(4)計画内容	計画地の位置 位置図を添付すること	熊野市金山町 (図1 位置図参照)
	建物・施設等の概要(用途、規模、面積、配置等) 配置図を添付すること	特別支援学校 1階建 RC造(屋根は木造) 延床面積 約2,700㎡(図2 配置図参照)
	用水の使用計画	上水道を利用
	エネルギーの使用計画	一部LED照明の使用など、省エネとCO ₂ 排出量削減を図ります。 オール電化により、工事費の軽減を図ります。
	雨水、汚水の排水計画	雨水：排水溝により対応 汚水：浄化槽設置により対応、側溝に排水
	道路・交通計画	熊野市道金山小学校線に接続
	工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の予定時期
(5)関連事業計画	造成工事(約9,952㎡)	
(6)その他	該当なし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	交通の現況	公共交通機関なし。 児童生徒は、スクールバス利用予定。
	土地利用の現況	畑及び雑種地。現在は、遊休地で起伏があるため造成が必要。 平成23年9月の紀伊半島大水害以降、災害復旧のための残土仮置き場として使用されていた。（平成25年度末撤去）
	水域利用の現況	生活用水として上水を利用。
	生活関連施設の現況	周辺には、金山小学校、金山保育所がある。
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	自然環境保全地域等の指定状況	自然環境保全地域（地区）、自然公園地域（区域）、鳥獣保護区の指定状況 指定なし
	土地利用規制の現況	都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況 都市計画法：都市計画区域外 屋外広告物条例：原則届出不要 景観法：三重県景観計画区域内、通知済み（造成） 通知予定（建築） 農業地域振興法：農用地区域の変更許可済 森林法：対象外 砂防法：指定地域外 地すべり等防止法：指定区域外 急傾斜地災害防止法：指定地域外 河川法：対象外 海岸法：対象外 文化財保護法：対象外

3 計画地の自然的条件の現況

(1)地形・地質	文献調査	文献名	防災みえホームページ	
	現地調査の有無	有 ・ 無 (実施日時)		聴取調査の有無 有 ・ 無
	調査結果等	計画地の東側およそ1.5kmのところ、北から南東にかけて活断層がある。		
(2)水象	文献調査	文献名		
	現地調査の有無	有 ・ 無 (実施日時H26.2)		聴取調査の有無 有 ・ 無
	調査結果等 河川、湖沼	太田川が御浜町をとおり熊野灘に注いでいる。流域に農地が点在し、農業用水として利用している。		
	海域	気象又は地震に密接に関連する海域の諸現象は無いと想定		
(3)気象・大気質等	調査の方法	津地方気象台ホームページ (2013年データ) 平成25年度版 三重県環境白書		
	調査結果	気温：平均気温 16.9 最高気温 37.1 最低気温 -1.9 降水量：年降水量 2461.5mm/年 風速：平均風速 1.7m/s 大気質：二酸化硫黄 0.002ppm 二酸化窒素 0.002ppm 浮遊粒子状物質 0.014mg/m ³ (近隣調査地点：熊野市立木本中学校) 騒音：昼 (54dB)、夜 (44dB) (熊野市木本町624データ)		
(4)生態系等	文献調査	文献名	三重県レッドデータブック2005	
	現地調査の有無	有 ・ 無 (実施日時)		聴取調査の有無 有 ・ 無
	調査結果等 植物	植生の概要：かつて柑橘類の農地であったが、25年ほど前から耕作は行っていない。 貴重な植物個体：計画区域に貴重な植物個体は確認されていない。 貴重な植物群落：計画区域に貴重な植物群落は確認されていない。 (熊野市農業振興課を通して確認)		
	動物	動物相の概要： 貴重な動物：計画区域に貴重な動物は確認されていない。 (熊野市農業振興課を通して確認)		

(5)自然景観・文化財等	文献調査	文献名	三重県景観計画	
	現地調査の有無	有 ・ 無 (平成25年7月)	聴取調査の有無	有 ・ 無
	調査結果等 自然景観	<p>自然景観の概要：計画地は、金山パイロットファームの一角に位置し周辺はみかん農園が広がる。近年開発が進み隣接地は小学校、保育所、住宅地、工業団地用地が開発されている。</p> <p>貴重な自然景観：東側約3kmに七里御浜、鬼ヶ城などの景勝地が広がる。</p>		
	文化財、 史跡、名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物：西側の山地の一部は、世界遺産紀伊山地の霊場と参詣道に指定されている。市街地では、熊野古道沿いに往時のまち並みの名残がみられる。</p> <p>埋蔵文化財包蔵地：対象外</p>		
野外レクリエーション 他	<p>周辺に熊野倶楽部（南東 約1km）、県立熊野少年自然の家（北西 約2km）</p>			
(8)その他、自然災害等	<p>西側の法面に小規模な崩落有り（現地確認） 擁壁の設置及び安定勾配の確保により対応する。</p>			

4 事業計画の検討内容（複数案比較）

*用地選定が異なる計画、同じ用地での異なる計画等との比較を行う。比較検討用の位置図を添付すること。

	事業計画案 熊野市金山町	比較検討（A案：図-3） 御浜町阿田和向山	比較検討（B案：図-4） 紀宝町井田大谷
(1)計画の概要	計画地は、耕作されていない農地である。校地に必要な面積のみ造成をすることで、環境への配慮を行う。また、周辺に小学校、住宅地、工業団地予定地があり自然環境への影響も少ないと考える。	計画地は町有地で、造成が必要である。また、ライフラインの工事が必要なため大規模な開発が必要となる。自然環境への負荷が大きい。	計画地は、雑木林である。造成や取付道路の工事、ライフラインの設置などが必要なため、自然環境への負荷が大きい。
(2)環境評価（*左欄に を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入） 循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然が共にある環境の保全 やすらぎとうるおいのある快適な環境の創造			
-1 地球温暖化防止	樹木の伐採が小規模である。	樹木の伐採が小規模である。	樹木の伐採が大規模である。
-2 廃棄物対策	造成に伴う樹木の伐採が小規模である。	造成に伴う樹木の伐採が小規模である。	造成に伴う樹木の伐採が大規模である。
-3 生活環境の保全	住宅地が隣接しているため生活環境への影響が想定される。	周辺が農地であるため生活環境への影響は少ない。	樹木の伐採や造成により濁水等、周辺への濁流等の影響が懸念される。
-4 その他重点項目			
-1 野生生物等の生育空間の確保	周辺が開発されており影響は少ない。	造成による自然環境への影響が懸念される。	伐採と造成により生物空間の確保が懸念される。
-2 希少な野生生物の保護	希少生物の確認はない。	希少生物の確認はないが、環境変化への懸念がある。	希少生物の確認はないが、環境変化への懸念がある。
-3 地形、地質等の改変の抑止	できる限り小規模な造成に留める。	造成及びライフライン工事が伴う。	伐採、造成、取付道路等関連工事により大規模な地形の改変が伴う。
-4 その他重点項目			
-1 緑化、周辺景観との調和	周辺が開発され、隣接地が住宅団地であり、校舎を1階建てにすることで周辺計画との調和を乱すことは限定的である。	周辺が農地のため周辺景観への配慮が必要となる。	周辺が農地のため周辺景観への配慮が必要となる。
-2 親水等、ふれあい空間づくり			
-3 その他重点項目			
上記以外の特記事項	ライフラインが整備されている。	ライフラインが整備されていない。	ライフラインが整備されていない。

5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長 所	<p>柑橘類が耕作できない農地であるため、耕作されていない農地となっている。また、平成23年の紀伊半島大水害時の残土置き場として使用されていたため、開発の影響が少ない。</p> <p>他の用地と比較すると造成が小規模になること、周辺がすでに開発されていることを考慮すると環境への影響が最小限に抑えられる。</p>
短 所	特になし。
会議で調整を要する事柄	